

2004年2月23日 日本テレビ 定例記者会見**(要旨)****1. 最近の視聴率動向分析について**

記者：最近の視聴率動向について。

山根義紘編成局長：

昨年は、年間四冠王（1月～12月）は10年連続で獲得できましたが、2003年の年度四冠王（4月～3月）は、昨年の3月31日から先週まで、既に47週終わっていますが、全日は0.6%勝ち、プライムタイムは0.2% C Xに負けております。

残りも5週となり、94年から9年連続獲った四冠王の一角、プライムタイムを落とすことがほぼ確実と言えそうです。

2月22日までの47週のプライムタイム数字は、日本テレビが13.9%、フジテレビが14.1%ということで、その差0.2%です。先週水曜のワールドカップサッカー予選・日本対オマーン戦が28.7%とかなり高いレーティングで、年度にも大きく貢献したのですが、残すところ5週という現状では年度のプライムを落としそうな状況にあります。

下半期（2003年9月29日～）は、21週で全日はプライムが1.2%、ゴールデンが0.3% C Xに負けています。

2004年年間でみると、8週を終わったところですが、全日が0.1%プラス、プライムが0.9%マイナス、ゴールデンが0.1%プラスになっています。

主な原因について、具体的な話を致しますと、日本テレビと2位のフジテレビ、年度46週終わり、19時台（日本テレビ13.5%、フジテレビ11.8%）で、1.7%、20時台（日本テレビ14.6%、フジテレビ14.4%）で0.2%日本テレビがプラスになっています。しかし、21時台（日本テレビ14%、フジテレビ15.2%）マイナス1.2%、22時台（日本テレビ13.4%、フジテレビ15.3%）1.9%のマイナスとなっており、年度の0.2%負けた原因に、この21時、22時台の差が大きく影響していると思っています。

また、ナイターが昨年は72試合放送し、初の全試合60分延長という形で放送しましたが阪神の独走を許したこともあり14.7%と、一番低い数字の結果に終わりました。

この他、月曜日（YTV制作）・水曜日・土曜日のドラマ3枠が不調で、これが大きくプライムタイムの数字を下げたこと、このレーティングを補えるような

新たなバラエティの開発ができなかったことも、原因ではないかと思っています。

一方、フジテレビの好調の要因としては、昨年9月以降に編成された、世界柔道、ワールドカップバレーと大型のスポーツ単発です。例年になく長期間編成され、高視聴率を獲得したことで、大きくゴールデン、プライムの差が縮まったのではないかと分析しています。

また2クール編成の「白い巨塔」が非常に高い数字をとったり、「Dr.コトー」や「プライド」などのドラマが息を吹き返してきたこと、そして特に大きかったのは「トリビアの泉」など若者向けのバラエティが元気になった点で、フジテレビと我が社の差が縮まった原因ではないかと思っています。

4月からは21時、22時台の企画を強化する編成に、力を入れていきたいと思っています。

そして、2004年の年間については、8週しか終わっておりませんが、日本テレビでは1月期（1月～3月）は、ドラマ3枠しか改編をしていません。すべて4月に大幅な改編をしようということで、そちらに目を向けております。

この1月期につきましても、やはりフジテレビが月曜21時台の「プライド」、それに続く「SMAP×SAMP」、火曜日の「僕と彼女と彼女の生きる道」、水曜日の「トリビアの泉」、そして木曜日の「白い巨塔」と、5枠が20%を超える数字が出ており、苦しい戦いはしていますが、すべて4月改編で補って参りたいと考えています。

今週、はじめて全局この汐留に移転しますので、3月1日から新しい形から出直そうという気持ちで、臨みたいと思っています。

2. 4月改編のポイント

記者：では4月改編のポイントは何か？

山根編成局長：改編のポイントは、まず、プライムタイムの視聴率強化です。月曜日、21時から23時の枠を上下入れ替えて、21時をYTV制作のドラマからバラエティへ、22時台を日本テレビ制作の「スーパーテレビ」にして、エンターテインメントの流れをよくしようと考えています。

そして木曜日の19時から21時の枠、19時から「天才！志村どうぶつ園」、志村けんさんの1時間番組、20時から「摩訶！ジョーシキの穴」。日曜日の20時から「ワールドレコーズ（仮）」という3本の新番組をスタートします。そして、水曜日、土曜日のドラマ2枠。

今までの4月改編からすると、改編率が33.5%と非常に高く、プライムタイムの改編を中心にすすめたいと思っています。

2点目は、新しいイメージの発信です。営業収益の伸びが最近非常に厳しいこともあり、営業の収益を考えた構造改革を考える必要もあるため、日曜日の昼帯、10時55分から13時30分、2時間半強の枠を生放送で、「@サブリッ！」という新しい大型の生放送のバラエティ番組を立ち上げるつもりです。

また「きょうの出来事」は、月曜日から木曜日まで、スタートを22時54分に戻し、「別バラ」と入れ替えます。

そして「汐留スタイル！」は15時55分から17時25分に25分拡大します。

昼間のいわゆるベルト番組、「汐留スタイル！」並びに日曜日の縦の大型の生情報バラエティを立ち上げ、新しいイメージを作り出していきたいと思います。

3点目はナイターです。ナイター中継は昨年1時間延長という形でスタートしましたが、ナイター以外の番組を希望する視聴者に配慮して、平日は最大30分延長に戻します。土曜日、日曜日は、視聴者のライフスタイルも変わってきますし、生活動向が平日とは異なりますので、引き続き60分延長とします。

今年のナイターは71試合を予定。ジャイアンツ戦のカードが64試合、甲子園球場の阪神・巨人戦が4試合、広島市民球場の広島・巨人戦が3試合、計71試合を予定しています。今年のナイターの目玉は、何といても打線が売り物のジャイアンツ、オーダーを含めた打線がどうなるか、堀内監督率いる今年のG戦に期待をしています。

開幕前には松井選手の所属するヤンキースが来日します。これがいい弾みになって開幕を迎えることができればと考えています。

最後にもう1点。4月の改編の大きなポイントは、新しいクリエイターを積極的に起用しようということです。10年間おかげさまで年間4冠王を獲得させていただいた結果、若いクリエイターに番組を任せるチャンスがなかったということもありました。

そこで、新番組ではプロデューサー、ディレクター含め、未経験の20代から30代までの、新しいクリエイターを育成しようと思います。

入社10年目位の若いクリエイターが自分の企画番組を思いきった形で制作し、10年スパンで続くような番組を作ることができるよう、主要新番組の7本中の5人を、新しい世代のクリエイターに任せます。こうした新しい人材の登用を、改編の目玉にしたいと考えています。

94年の大改編以来、久しぶりのプライムタイムの改編率です。今月から汐留

に全局引っ越してきますので、新しい汐留から4月の改編に向けて新たな発信ができればと考えています。

記者：視聴率について、会長はいかがですか。

氏家齊一郎会長：

視聴率は今、編成局長が申し上げたように、2位局に非常に押されています。視聴率が良い、悪いは別問題として、やはり視聴率は、スポットその他の売上に大きな影響を依然として与えていることは事実です。

我々としてもここ一番ダッシュして、以前と同じような大きな差をつけて今後もやっていきたいと思っています。

3．マスター移転に見通しについて

記者：マスター移転の見通しについて。

間部耕幸社長：

先ほど編成局長が申しましたように、編成、報道、それから技術の一部が麹町に残っていましたが、今週の末までには完全に移転します。

マスター移転のための本番テストは、2月1日から開始しています。放送事故につながるような不具合をチェックし、修正する作業と、社員の運用訓練ですが、いずれも順調に推移しています。

地上アナログ放送と地上デジタル放送とも、2月29日2時20分に麹町からの放送を中止し、5時20分からこの汐留メディアセンターから電波発信を行うように切り替えします。いよいよこれで汐留新社屋がフル稼働することになります。

4．サブリミナル問題について

記者：先般報道がありました番組の中にサブリミナル画像ではないかと思われる画像が挿入されていたということですが？

間部社長：「マネー虎」の、タイトルの終わりにお金に関する番組という意味で、1万円札の福沢諭吉の映像を6コマ入れていました。それがサブリミナルの手

法ではないかという指摘がありますが、実際に福沢諭吉の肖像は視認でき、視聴者からこのカットについて言及するメールも届いています。

日本テレビとしてはこの当該映像は、民放連の放送基準にある「視聴者が通常、感知し得ない方法」であるサブリミナルには当たらないと認識していますが、今月5日、外部からの指摘も受け、誤解を招くことから直近の放送日よりこの当該部分を差し替えています。

また「さんま御殿」の募集告知の中で、賞金が3万円から5万円にかわったので、この5万円を強調するために、寝ている5の数字を立ち上げたわけです。その間、光がちょっと当たっていますが、この5万円が静止する状態までの数字の5は、通常の視聴形態では十分認識できますので、これはサブリミナルの表現手法には該当しないと考えています。

ただし、光感受性問題、通称パカパカと言っていますが、これについての問い合わせを18日に受けました。技術的に計器を使って慎重に精査したところ、民放連放送基準60条に関連して、「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」があります。そのガイドラインの限度を超えている部分が一部確認されました。

日本テレビは1997年に発覚した別の放送局制作アニメのパカパカ問題を受けて、98年に示された「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」の遵守を社内に徹底しましたが、一部に見落としがあったことは否認しません。

今回の「さんま御殿」の限度逸脱を真摯に受け止め、現在アニメ以外の全番組について、計器を使って徹底したチェックを実施しております。また、2001年3月に審査室より全プロデューサーに通達したパカパカに関する注意文書を改めて徹底することを決めました。本日付で全プロデューサーを含めて担当者に通達を出しました。

今回のサブリミナル疑惑、パカパカ規定に反した事態を深刻に受け止め、上記両番組以外に誤解を招きかねない映像も含めて、編成、報道、審査、技術、統括と各局の連携を緊密に取りながら、チェック体制の制度化も検討するなど、再発防止に努めるつもりです。

もう少し詳しく言いますと、この立ち上げる間に白い光が5回変化しています。ガイドラインでは「鮮やかな赤色の点滅は特に慎重に扱う」。それから、「その条件を満たした上で、1秒間に3回を超える点滅が必要なときは、5回を限度とし、かつ画面の輝度変化を20%以下に抑える」。それから「20%を超える急激な場面転換は、原則として1秒間に3回を超えて使用しない」と、記載されていますが、輝度変化については20%を超えているということです。

ちなみにこのガイドラインをつくったときに、「ポケットモンスター」が1秒間に12回、それが4秒間あり、刺激が強い赤の点滅があったということ、子ど

もたちが画面にひきつけられている状況で放送したということで、ガイドラインを作りました。私どもは、全体的に精査して、再発防止に努めます。

５．視聴率操作問題フォローアップの現状について

記者：では視聴率操作問題に関して。

萩原敏雄副社長：

視聴率の操作問題を受けて、私共としては３つの会議および委員会を設けて、再発防止策に取り組んでおります。発表済みですが、１つはコンプライアンス委員会を氏家委員長の下に、外部委員の方も加えて、立ち上げました。この委員会はタスク１～３という構成で、それぞれが既に、多いタスクは７回、概ね４回から５回の会議を開き、役割に応じた対策を協議しています。

特に不正防止対策委員会のタスク１に関しては、制作費管理の改善という点で、内部統制システムを作る方向です。現在でも管理体制そのものはできていますが、不正が発生した場合のチェック体制に関して、鋭意検討中です。この不正防止策を受けて、タスク２が不正の監査のチェックシステムを日常的に行う制度の検討を続けています。

業務改善委員会ですが、こちらは社員の意識の改革、いわゆる倫理観をどう高めていくかという点で議論を重ねています。いつまでに結論をとということではなく、いい対策が出れば、順次取り入れていこうとして、現在進行中です。

もう１つは、新しい番組評価基準を考える会を発足いたしました。テレビマンユニオンのプロデューサー・演出家である重延浩さん、コピーライターの糸井重里さん、脚本家の大石静さん、楠田枝里子さん、鈴木敏夫さん、鈴木嘉一さん、テリー伊藤さん、藤平芳紀さんをお願いをして、これまでに３回の会議を開きました。

第１回では、会の進め方を中心に議論しました。これまでに試みた番組の評価基準の紹介などもしました。この委員会は現在の視聴率だけではなく、多角的に番組を評価する指標、あるいは補完的評価となるべき新しい基準を考えようということで、むしろテレビ業界のベテランの方々をお願いをして、知恵を出していただきます。大体６ヶ月をメドに成案を提出していただき、日本テレビの取締役会に答申、取締役会の諮問機関にあたります。

会の進行は、必要に応じてゲストスピーカーをお招きして意見を伺った上で、皆で議論していきます。第２回目には広告主協会の方、第３回目は、広告業協会の方二人をお招きして、それぞれの立場から見た視聴率に関してのお話を伺

いました。

それからもう1つは、日本テレビの放送番組審議会で、この再発防止問題について取り組みます。これは10月28日以降、既に4回の番組審議会を開催しました。今まではどちらかというと番組の合評みたいな形で、こちらが指定した番組を批評していただく形で進めてきました。しかし10月28日以降は、そうした合評会ではなく、視聴率の問題、番組の質の問題に関して、どちらかといえば番組や番組編成の本質的な問題に関して委員の方々のご意見を出していただいています。具体的には、12月30日に放送した「視聴率ってなんだろう？」という番組について、こういう番組をやったらどうだろうというご意見もありましたので、ご意見に沿って、放送をしました。

社内の報奨に関して、番組審議会もその報奨に意見を言うことができることにしたらどうだろうというご意見があり、これも早速取り入れて、編成局長が番組審議会に意見を伺う、あるいは番組審議会の方からこの番組は報奨したらどうだろうというご意見があれば、それも伺うということも、既に具体的に実行しています。

記者：以前、この問題が一段落したら、検証番組を放送するというお話がありますが、それはどうなりましたか。

萩原副社長：12月30日に「視聴率ってなんだろう？」という番組を午前10時半の枠で45分間放送しました。これも番組審議会の意見を受けて、お詫び番組をやるよりも、むしろテレビにとって視聴率というのは何だろうというテーマで作った方がいいのではないかというご意見をいただき、それに沿って作成した番組です。そのほかの委員会等々の議論については、「あなたと日テレ」の中できちんと紹介する予定です。

6．自衛隊イラク派遣取材体制について

記者：自衛隊のイラク派遣取材体制について。

間部社長：サマワとクウェートの2か所に12名派遣しています。テロがイラク全土に広がって危険性が増していることから、安全最優先で取材をするように指示しています。

松本正樹報道局長：

取材体制については、現在サマワに 8 名、それからクウェートに 4 人。この 2 か所に記者、カメラマン、中継要員、計 12 名を派遣しえ取材報道にあたっています。

現地では管理職クラスの取材キャップを安全管理者として配置。安全を最優先に、自衛隊の動向を中心に取材します。取材に際しては、防弾チョッキ・ヘルメットの着用、そして衛星電話を常に連絡手段として持つことなどを指示しています。

それからフリーランサーで今年度のボーン上田賞の特別賞をいただきました佐藤和孝、山本美香のクルーが現在バクダッドを中心に取材中です。

7. その他

記者：民放連のほうでNHKビジョンに関する見解について氏家会長の感想はいかがですか。24 時間インターネットの連携、受信料の新たな収入源など 4 つの柱からなっています。受信料の新たな収入源について民業圧迫という危惧は強いと思いますが。

氏家会長：民放連の会議では、今おっしゃった点が、一番民業の圧迫につながるという意見は多かったです。強い危惧があります。

記者：イラクの関係ですが、外務省との話が進んでいると思いますが、3 月中には宿営地もできると見られています。その後の話し合いについて、宿営地に入る、入らないなどの問題も含めていかがでしょうか。

松本報道局長：現在、新聞協会と民放連でイラク取材問題小委員会とを作って、防衛庁と細かい詰めを協議している最中です。我々取材する側から言いますと、適切な情報の提供、取材のルールの確立、きちんとするよう申し入れております。細かい交渉の経緯については、交渉中です。外部に発表しないという約束ですので、ご勘弁下さい。

ただ、取材の制限、制約にならないようにしてほしいと強く要望しています。

(了)